

## 第7回アルトマーク賞受賞講演

## HIV 感染症とのかかわり：24 年を振り返って

### Involvement in HIV Infection ; Look Back to 24 Years

岡 慎 一

*Shinichi OKA*

国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター センター長



## 略歴

1982年 徳島大学医学部卒  
 1982年 浜松医科大学第一内科 研修医  
 1983年 東京都養育院附属病院 感染症科  
 1986年 東京大学医科学研究所 感染免疫内科  
 1988年 米国 NIH/NIAD 客員研究員  
 1989年 東京大学医科学研究所 感染症研究部 助手  
 1995年 東京大学医科学研究所 感染症研究部 助教授  
 1997年 国立国際医療センター ACC 臨床研究開発部長  
 2006年 国立国際医療センター ACC センター長  
 2010年～ (独)国立国際医療研究センター (NCGM) ACC センター長  
 (2010年4月独法化に伴う組織改編のため)

私が初めてエイズ患者に出会ったのは、東大医科研感染免疫内科で医員として働いていた1986年の夏であった。バクタアレルギーを併発した重症のニューモシスチス肺炎(PCP)患者で、なすすべもなく数日で亡くなってしまった。エイズ患者用のマニュアルなどもなく、病棟はひっくり返したような騒ぎであった。何も資料はなかったが、患者受け入れ体制を作るのに島田教授のもと、高野感染症科病棟婦長と一緒に四苦八苦した記憶がある。当時は細菌感染症を専門としていたが、島田教授より「これからはウイルス感染症の時代が来る」、という言葉におされHIV感染

症を専門とすることになった。それから早いもので四半世紀が経とうとしている。当時エイズは、有効な治療もなかったため、まさに不治の病であった。このため研究対象はHIV感染症の病態や日和見感染症の診断と治療法の開発に明け暮れていた。1988年米国NIHにHIVの臨床研究を学ぶため留学する機会をいただいた。この時PCRと出会うが、90年代の論文を振り返るとPCRによるHIV定量法の開発と治療効果判定への応用、病状の進行に関連するV3の変化や、PCPや結核などのPCR診断法の開発などである。PCRというテクニックが始まったばかりの頃であったので、培養が困難な病原体診断にはいろいろ応用できた。

1996年3月の血友病HIV感染者と国・製薬企業との和解を受けHIV診療の恒久対策の一環としてAIDS Clinical Center: ACCが設立されることになったが、1996年10月ACC設立準備のため東大医科研から国立国際医療センター(現在のNational Center for Global Health and Medicine: NCGM)へ移った。1997年4月にACCが開設されたが、この頃からがまさに強力な抗HIV治療(HAART)の始まりであった。HIV患者の予後は見違えるように改善された。したがって、臨床研究の対象も、HAART療法に伴う多くの臨床的問題点、例えば薬剤耐性や副作用解明などに変わっていった。特に、1997年から取り組みを始めたテララメド治療開発のための研究では、efavirenzの血中濃度に関する遺伝子多型や、逆転写酵素阻害薬によるミトコンドリア障害に関連する遺伝子多型を世界に先駆けて発見し、実際の診療に応用してきた。熊本大学エイズ学研究所との共同研究も進み、免疫学的な研究も進んでいる。治療のエビデンスを作るため、米国NIHとも共同研究を行い、Lipodystrophyの診断基準作成、ESPRIT試験やSMART試験などの大規模臨床研究に参加してきた。この臨床試験に参加し、長期にわたる臨床研究の精度を高く維持していく重要性和難しさを経験した。現在この時の経験をふまえ、日本国内での無作為割付け多施設共同臨床研究を進めている。また、日本におけるHIV診療の均霑化のため、ACCにおける研修会のみならず全国の施設への出

張研修も精力的に行ってきた。ACCにおける患者数も年ごとに増え、現在3,000名を超えるまでに至っている。

この数年は、アジアに対する医療協力にも力を入れており、今までにタイ、ベトナム、モンゴル、台湾、香港、韓国などとも共同研究を行っている。また、NCGM国際医療協力局と合同で続けてきたASEAN諸国に対するエイズ

ワークショップは、WHOからも高い評価を得ており、ACCはWHO協力施設として認定されている。患者の多くは途上国で生活しており、特に近年アジアにおける患者の増加が憂慮されている。日本のアジアにおけるプレゼンスを示すためにも、アジアの一員としてアジアに対する協力を今後ますます深めていきたい。